

- (1)正解①:今出かけてもよいですか。—はい。ただし暗くなる前に帰らなければなりません。  
解説:許可の may は「～してもよい」を表す。返答後の文は義務を表しているため must が入り、「帰らなければならない」となる。
- (2)正解①:来館者は開館時間中、館内で写真を撮ってもよい。  
解説:許可の may は「～してもよい」の意味。Photography is permitted があるため、許可を表す may が最も自然である。
- (3)正解①:教育が社会の未来を形作ると言われることがある。  
解説:may は許可だけでなく、「～ということがある」という控えめな表現にも用いられる。It may be said that ... は定型表現。
- (4)正解①:ジムを見なかったが、机にいるかもしれない。  
解説:推量の may は「～かもしれない」。確信はないが可能性がある場合に用いられる代表的な助動詞である。
- (5)正解③:彼は決してよい生徒ではないはずだ。全く勉強しないからだ。  
解説:cannot は強い否定推量で「～のはずがない」。never studies が根拠となっている。
- (6)正解③:彼女は間違っているかもしれないが、私はそうは思わない。  
解説:推量の may は「～かもしれない」。後半で否定的見解を述べているため、弱い可能性を示している。
- (7)正解②:確信はないが、彼の説明は正しいかもしれない。  
解説:might は may よりさらに控えめな推量で、「ひょっとすると～かもしれない」を表す。
- (8)正解①:彼は「成功しますように」と私に言った。  
解説:May + 主語 + 動詞原形 は祈願文。「～しますように」という願いや祝福を表す文型である。
- (9)正解③:皆さんが幸せで健康でありますように。  
解説:祈願の May。「May you all be happy and well.」で祝福や願いを表す定番表現となる。
- (10)正解①:皆さんが幸せでありますように。  
解説:May + S + V は祈願文。スピーチや手紙の結びなどでよく用いられる。
- (11)正解③:この手紙があなたの健康と幸福を願うものとなりますように。  
解説:May this letter find you well and happy! は手紙の慣用的な祈願表現である。
- (12)正解①:その計画は簡単そうに見えるかもしれないが、実行は難しい。  
解説:譲歩の may は「たしかに～かもしれないが」の意味。後ろの but と結びついて譲歩を表す。
- (13)正解①:その議論はもっともらしく見えるかもしれないが、十分な証拠がない。  
解説:譲歩の may は「確かに～かもしれないが」。主張を一部認めた上で反論する表現である。
- (14)正解①:私は入試に合格できるよう毎日一生懸命勉強する。  
解説:目的の may。so that S may V で「S が V できるように」という目的を表す。
- (15)正解②:彼は家を買えるよう何年もお金を貯めた。  
解説:主節が過去形なので、so that S might V を用いて過去の目的を表している。
- (16)正解①:その少年は簡単な英語の物語を一

- 人で読むことができる。
- 解説:能力の can は「～できる」。learned the alphabet が能力の根拠となっている。
- (17)正解①:生徒は放課後図書館を利用できる。
- 解説:許可の can は「～してもよい」。allowed to stay there until six が許可を示している。
- (18)正解③:彼は 30 歳を超えているはずがない。まだ 20 代のはずだ。
- 解説:can't be は強い否定推量で「～のはずがない」。must の否定ではないことに注意。
- (19)正解②:彼がメアリーの恋人であるはずがない。
- 解説:can't be は「～であるはずがない」。現在の状態に対する否定推量を表している。
- (20)正解①:ジョンが今ロンドンに住んでいるはずがない。
- 解説:cannot be living は現在進行中の状態への否定推量。「～しているはずがない」。
- (21)正解①:ジョンが空腹を空かせているはずがない。昼食を食べたばかりだからだ。
- 解説:can't be は否定推量。昼食直後という事実が根拠になっている。
- (22)正解②:フランス語を勉強したことがないのに、どうしてこの記事が理解できるのか。
- 解説:反語の can は「どうして～できようか」。実際には「理解できるはずがない」の意味。
- (23)正解①:彼がスポーツカーを買ったなんて、本当だろうか。
- 解説:Can it be ...? は驚きや疑いを表す反語表現で、「まさか～なのか」という意味になる。
- (24)正解①:注意深い運転手でも、疲れているとミスをすることがある。
- 解説:can は「時々～することがある」という可能性を表すことがある。
- (25)正解①:この地域の天候は冬に急変することがある。
- 解説:可能性の can。「～することがある」という一般的傾向を表している。
- (26)正解③:ダンス会場の音楽は非常に大きく、遠くからでも聞こえた。
- 解説:could は can の過去形。hear は受動態となり could be heard の形になる。
- (27)正解②:証拠は少ないが、その理論は正しい可能性がある。
- 解説:could は「～かもしれない」という弱い推量を表すこともある。
- (28)正解②:私は皆が理解できるよう、ゆっくりはっきり話した。
- 解説:主節が過去形なので、so that S could V を用いて過去の目的を表す。
- (29)正解①:私は皆が理解できるよう、ゆっくりはっきり話すつもりだ。
- 解説:主節が未来内容なので、so that S can V を用いる。
- (30)正解①:会議の前に空気を入れ替えたいので、窓を開けてもらえますか。
- 解説:Can you ~? は依頼表現。「～してくれませんか」という意味でよく使われる。
- (31)正解②:駅への行き方を教えていただけませんか。
- 解説:Could you ~? は Can you より丁寧な依頼表現である。
- (32)正解②:私は皆が理解できるよう、ゆっくりはっきり話した。
- 解説:目的の could。過去の行為の目的を表すため、so that S could V を用いる。
- (33)正解①:私は皆が理解できるよう、ゆっくりはっきり話すつもりだ。

- 解説:目的の can。未来や現在の内容には can が自然である。
- (34)正解①:優秀な医師は緊急時に素早い判断ができなければならない。  
解説:be able to do は「~することができる」。ここでは形容詞 able の前に is が必要。
- (35)正解①:詳しい地図のおかげで、その小さな博物館を簡単に見つけることができた。  
解説:be able to do は実際に達成できたことを表すのに適している。
- (36)正解②:明日の午後、その会議に出席できますか。  
解説:助動詞 will の後ろには原形が必要なので be able to が入る。
- (37)正解①:アリスは昨日そこにいたかもしれないが、私たちは見なかった。  
解説:might have been は「いたかもしれない」。過去の出来事への推量を表す。
- (38)正解④:私は先週メキシコへ行き、その時彼女に会うことができた。  
解説:was able to do は「実際に~できた」。一度だけ成功した行為には could より適切。
- (39)正解①:子どものころ、私はクラスの誰よりも速く走ることができた。  
解説:could は過去の一般的能力を表す。習慣的な能力には was able to より自然である。
- (40)正解②:その少年は誰よりも速く問題を解いた。とても頭がよいに違いない。  
解説:強い推量の must。「~に違いない」の意味。問題を早く解いたことが根拠になっている。
- (41)正解④:そんな短時間で1マイル走ったのだから、優れた運動選手に違いない。  
解説:強い推量の must。to have run が推量の根拠を表している。
- (42)正解②:そんな長距離を歩いたのだから、歩くのが得意に違いない。  
解説:強い推量の must。「~したのだから、きっと~だ」という推測を表す。
- (43)正解④:ラジオの音が聞こえるので、彼は家にいるに違いない。  
解説:強い推量の must。because 以下の事実を根拠に現在の状態を推量している。
- (44)正解④:時計の鐘が聞こえるので、10時に違いない。  
解説:強い推量の must。「~に違いない」。聞こえてきた鐘の音が判断の根拠。
- (45)正解③:明日の朝までにこのレポートを終えなければなりませんか。—はい。  
解説:Must I ~? の応答。肯定なら Yes, you must. を用いる。
- (46)正解②:今日の午後の会議に出席しなければなりませんか。—いいえ。  
解説:Must I ~? の否定応答。No, you don't have to. で「その必要はない」。
- (47)正解①:今外出してもよいですか。—はい。ただし暗くなる前に帰りなさい。  
解説:義務の must。「~しなければならない」の意味。帰宅する義務を表す。
- (48)正解④:急いで。会議は7時に始まる。遅れてはいけない。  
解説:禁止の must not。「~してはいけない」の意味を表す。
- (49)正解②:オペラは7時に始まる。遅れてはいけない。  
解説:禁止の must not。don't have to ではなく「禁止」の意味になる。
- (50)正解③:約束したので、遅れてはいけない。  
解説:禁止の must not。「絶対に遅れてはいけない」という強い禁止を表す。
- (51)正解③:明日ぜひ私たちに訪ねてください。

- 解説:勧誘・強いすすめの must。「ぜひ～してください」という意味で用いる。
- (52)正解④:パリに行ったら、ぜひ郷土料理を試してみるべきだ。  
解説:勧誘・強いすすめの must。「絶対に見逃せない」というニュアンス。
- (53)正解③:今日は終わらないので、明日また取り組まなければならないだろう。  
解説:must の未来形。must に未来形はないため will have to を用いる。
- (54)正解②:昨日列車が運休したので、私たちはタクシーに乗らなければならなかった。  
解説:must の過去形。過去の義務は had to で表す。
- (55)正解①:昨夜は宿題を終えなければならなかったので遊べなかった。  
解説:過去の義務の had to。must の過去の意味を表す。
- (56)正解③:車が故障したので、私たちはタクシーに乗らなければならなかった。  
解説:過去の義務の had to。実際に必要だった行為を表している。
- (57)正解③:昨夜は試験勉強をしなければならなかったので疲れている。  
解説:過去の義務の had to。last night があるので過去形。
- (58)正解②:兄が事故に遭ったので、その時病院へ連れて行かなければならなかった。  
解説:過去の義務の had to。事故という状況から必要になった行為。
- (59)正解②:もう 11 時だ。帰らなければならない。  
解説:have got to do。「～しなければならない」の意味で口語的によく使う。
- (60)正解②:車が故障したので、私たちはタクシーに乗らなければならなかった。  
解説:had to do。過去の必要・義務を表す基本表現。
- (61)正解①:講義が全部休講なので、今日は大学へ行く必要はない。  
解説:don't have to do。「～する必要はない」の意味。
- (62)正解①:向こうは暖かいので、厚い服を持って行く必要はない。  
解説:don't have to do。不要を表し、禁止ではない。
- (63)正解①:今回は支払う必要はありません。  
解説:don't have to do。「支払わなくてもよい」の意味。
- (64)正解③:行きたくなければダンスパーティーに行く必要はない。  
解説:don't have to do。「～しなくてもよい」を表す。
- (65)正解①:話したくなければ、自分のことを話す必要はない。  
解説:don't have to do。義務がないことを表す表現。
- (66)正解①:気軽なパーティーだったので、正装する必要はなかった。  
解説:don't have to do。「～する必要はない」の意味。
- (67)正解①:学生は試験会場に入るため学生証を持参しなければならない。  
解説:have got to do。「～しなければならない」を表す口語表現。
- (68)正解③:はい。事務所が閉まる前に提出しなければなりません。  
解説:have got to do。強い必要・義務を表している。
- (69)正解:only to  
訳:応募者を知るには、30 分直接話しさえすればよい。  
解説:have only to do。「～しさえすればよい」の意味。

(70)正解④:私にそれを少し見せてくれればよい。

解説:have only to do。「ただ～すればよい」を表す。

(71)正解:have

訳:あなたは私にメールを送るだけでよい。

解説:have only to do の形になる。

(72)正解②:私にそれを少し見せてくれればよい。

解説:have only to do。「～しさえすればよい」の意味。

(73)正解②:いいえ。彼からはまだ連絡がありません。

解説:have yet to do。「まだ～していない」の意味。

(74)正解②:委員会はまだ最終決定に達していない。

解説:have yet to do。「まだ～していない」を表す重要表現。

(75)正解③:彼女は受けた親切を決して忘れないと言っている。

解説:意志の will。「～するつもりだ」「～しよう」という話し手・主語の意志を表す。

(76)正解②:椅子が足りないね。一隣の部屋から持ってこよう。

解説:意志の will。その場で決めた行動は will を用いる。

(77)正解③:ホワイト氏を紹介していただけるなら、大変ありがたく思います。

解説:意志の will。if 節の will は未来ではなく「～してくれる意志」を表す。

(78)正解①:この鍵は何かおかしい。どうしても回らない。

解説:拒絶の will not (won't)。物が「どうしても～しない」ことを表す。

(79)正解④:皆でトラックを押したが、どうしても動かなかった。

解説:拒絶の would not (wouldn't)。won't の過去形で「どうしても～しなかった」。

(80)正解①:子どもは大人には答えにくい単純な質問をよくするものだ。

解説:習性・傾向の will。「よく～するものだ」という一般的傾向を表す。

(81)正解①:油は水より軽いので、水に浮くものだ。

解説:習性・傾向の will。自然現象や一般的性質にも用いられる。

(82)正解①:ドアを閉めていただけませんか。少し寒いです。

解説:依頼の Will you ~?。「～してられませんか」という依頼表現。

(83)正解④:この箱を隣の部屋まで運ぶのを手伝っていただけませんか。

解説:依頼の Would you ~?。Will you より丁寧な依頼表現。

(84)正解④:何度電源ボタンを押しても、私のコンピュータは起動しない。

解説:拒絶の will not。機械などが「どうしても動かない」ことを表す。

(85)正解④:何度言っても、彼女はどうしても禁煙しようとしなかった。

解説:拒絶の would not。過去における強い拒絶や頑固さを表す。

(86)正解②:子どものころ、私たちは毎年冬になるとスケートをしたものだ。

解説:過去の習慣の would。昔繰り返し行った行動を表している。

(87)正解③:彼女は子どものころ、よく私たちに会いに来たものだ。

解説:過去の習慣の would。「よく～したものだ」を表す代表的用法。

(88)正解③:彼女は来年カナダへ留学する予定である。

- 解説: be going to do. 「～する予定だ」「～するつもりだ」を表す。
- (89) 正解④: 天気が回復しているので、彼らはその行事を中止しない予定だ。  
解説: be going to の否定文。be 動詞の後ろに not を置く。
- (90) 正解②: この夏、そのボランティア活動に参加する予定ですか。  
解説: be going to の疑問文。Are you going to ~ ? の語順になる。
- (91) 正解②: あの黒い雲を見て。もうすぐ雨が降りそうだ。  
解説: be going to. 目の前に根拠がある未来予測を表している。
- (92) 正解①: 電話が鳴っている。一私が出ます。  
解説: 意志の will. その場で決めた行動は will を用いる。
- (93) 正解②: 私は来月カナダへ行く予定なので、昨日新しいスーツケースを買った。  
解説: be going to. すでに計画・準備が進んでいる未来を表している。
- (94) 正解①: テストに向けて一生懸命勉強したのだから、答案を注意深く確認すべきだ。  
解説: should do は「～すべきだ」を表す助動詞。ここでは、努力した成果を失わないための助言として should check が適切。
- (95) 正解④: あなたは何も悪いことをしていない。なぜそれを心配する必要があるのか。  
解説: Why should S V? は「なぜ S が V する必要があるのか」という反語表現。実際には「心配する必要はない」という意味になる。
- (96) 正解: ought not to say: 彼は彼女にそんな失礼なことを言うべきではなかった。  
解説: ought not to do で「～すべきではない」。ought は後ろに to + 動詞の原形を置くので、語順は ought not to say。
- (97) 正解: should: 私たちは、彼を不必要に傷つけるような提案をすべきではない。  
解説: should not do は「～すべきではない」を表す。ここでは「相手を傷つける提案は避けるべきだ」という助言になる。
- (98) 正解②: 彼はもっとよく子どもの世話をすべきだ。  
解説: ought to do は「～すべきだ」を表し、should とほぼ同じ意味。空所の後に to look があるので ought が入る。
- (99) 正解④: 私は父に本当の健康状態を話すべきではない。  
解説: ought not to do で「～すべきではない」。空所の後に not to tell が続くため、ought が正しい形になる。
- (100) 正解②: 彼の計画は放棄されるべきではない。  
解説: ought not to be 過去分詞 で「～されるべきではない」。否定語 not は ought の後ろに置くのが標準的な語順。
- (101) 正解②: すべての会員がクラブの規則を知ることが必要である。  
解説: It is necessary that S should V の形。必要・重要を表す形容詞の後では、that 節内に should + 動詞の原形 を用いる。
- (102) 正解②: すべての子どもが同じ教育機会を持つことが不可欠である。  
解説: It is essential that S V の構文。essential の後の that 節では、主語が三単現でも have のように動詞の原形を用いる。
- (103) 正解③: すべての新会員ができるだけ早く規則を知ることが必要である。  
解説: It is necessary that S should V の形。必要性を表す that 節では、普通の過去・未来ではなく should + 原形 を用い

- る。
- (104)正解③:その書類は金庫に保管されることが不可欠である。  
解説:It is essential that S be p.p. の形。that 節内は原形なので、受動態でも is kept ではなく be kept になる。
- (105)正解④:すべての会員ができるだけ早く規則を知ることが必要である。  
解説:It is necessary that S V の形。should が省略されると、that 節内は主語に関係なく 動詞の原形 になる。
- (106)正解③:教師は各生徒が記事を読んだ後に短い要約を書くよう提案した。  
解説:suggest that S V は「S が V するよう提案する」。提案の that 節では、主語が each student でも write と原形を用いる。
- (107)正解③:父は私がおその場所を見に行くよう強く主張した。  
解説:insist that S should V は「S が V するよう主張する」。要求・主張の that 節では should+原形 がよく使われる。
- (108)正解①:大統領がおその政策を変更するという提案は問題外である。  
解説:proposal that S V は「S が V するという提案」。提案内容を表す that 節では、動詞は change のように原形になる。
- (109)正解③:私は彼女がおその教授に会うことを勧める。  
解説:recommend that S should V は「S が V することを勧める」。勧告の that 節なので should see が適切。
- (110)正解:demanded that her money should be refunded:彼女はお金が返金されるよう要求した。  
解説:demand that S should V は「S が V するよう要求する」。ここでは受動態なので her money should be refunded の形になる。
- (111)正解③:医師は患者がお数日間強い日光にさらされないよう勧めた。  
解説:suggest that S not be p.p. の形。提案の that 節では否定語 not を原形 be の前に置く。
- (112)正解③:裁判官は裁判がお終わるまで、その文書がお公開されないよう命じた。  
解説:order that S not be p.p. の形。命令の that 節では not be made のように原形を用いる。
- (113)正解①:メアリーがお今日学校を欠席しているとは不思議だ。彼女はお普段遅刻もしない。  
解説:It is strange that S should V は「S が V するとは不思議だ」。感情・驚きを表す should の用法である。
- (114)正解③:アニーがお芸術的才能を無駄にしているのは残念だ。  
解説:It is regrettable that S should V の形。遺憾・驚きなどの感情を表す that 節で should が用いられる。
- (115)正解①:彼がおそのような大切な機会を逃すとは残念だ。  
解説:It is a pity that S should V は「S が V するとは残念だ」。現在・一般的な出来事への遺憾を表す。
- (116)正解②:彼女がお長年おその真実を隠していたとは驚きだ。  
解説:It is surprising that S should have p.p. の形。過去の出来事に対する驚きなので should have hidden を用いる。
- (117)正解③:階段でお転んで足首をひどく痛めたなら、すぐ医者にお行った方がよい。  
解説:had better do は「～した方がよい」。相手に強めの助言をする表現で、後ろには動詞の原形を置く。

- (118)正解③:休暇シーズンに飛行機を利用したいなら、旅行者は早めに予約した方がよい。  
 解説:had better do の形。better の後ろに to は不要なので、had better make が正しい。
- (119)正解①:列車は5分後に出発するので、急いの方がよい。  
 解説:had better do は「~した方がよい」。空所の後に better があるため、組み合わせて had better hurry となる。
- (120)正解④:歯が痛いなら、今すぐ歯医者に行った方がよい。  
 解説:had better do の形。have better や had better to は誤りで、had better see が正しい。
- (121)正解②:父はとても忙しそうなので、今は邪魔しない方がよい。  
 解説:had better not do は「~しない方がよい」。否定語 not は better の後ろに置く。
- (122)正解②:この地域では、暗くなってからジョギングしない方がよい。  
 解説:had better not do の形。危険や不都合を避けるための忠告として用いられる。
- (123)正解②:食べ過ぎない方がよい。  
 解説:had better not do は「~しない方がよい」。had not better や had better to は標準的な形ではない。
- (124)正解②:この地域では、暗くなってからジョギングしない方がよい。  
 解説:had better not do の形。否定は had not better ではなく、had better not とする。
- (125)正解③:一人で歩き回らない方がよい。  
 解説:had better not do は警告に近い助言を表す。語順は had better not wander が正しい。
- (126)正解④:私たちは彼を「サー」と呼ぶ必要はない。  
 解説:助動詞 need は否定文で need not + 動詞の原形 を作る。短縮形は needn't。
- (127)正解:need:私たちは、彼を不必要に傷つけるような提案をあえてする必要はない。  
 解説:need not do は「~する必要はない」。空所の後に not suggest があるので、助動詞 need が入る。
- (128)正解①:私たちが時間を守るべきことは、言うまでもない。  
 解説:It need hardly be said that ... は「...はほとんど言う必要もない」という慣用表現。need の後ろは原形 be。
- (129)正解:whether you like it or not, you've got to go:好きでも嫌いでも、あなたは行かなければならない。  
 解説:whether you like it or not は「好むと好まざるとにかかわらず」。have got to do は義務を表す。
- (130)正解③:言いたくなければ、彼女に話す必要はない。  
 解説:need not do は「~する必要はない」。need not to とはせず、need の後ろは動詞の原形。
- (131)正解④:よくも私にそんな口の利き方ができるものだ。  
 解説:How dare you do! は「よくも~できるな」という怒りや非難を表す。dare の後ろは原形。
- (132)正解①:よくも私にそんな口の利き方ができるものだ。  
 解説:How dare you do! の形。to speak ではなく、dare の後ろには speak のような原形を置く。
- (133)正解③:よくも私にそんな口の利き方がで

- きるものだ。  
解説:How dare you V! は強い非難を表す決まり文句。How の後ろには dare が入る。
- (134)正解①:よくもそんなことを私に言えたものだ。  
解説:How would you dare to V? の形。dare to V で「あえて V する」、全体で強い非難を表す。
- (135)正解②:ここは昔教会があった場所だと思う。  
解説:used to do は「以前は～したものだ」。教会という状態・存在を表しており、過去の状態には would ではなく used to を用いる。
- (136)正解②:リンダは今あまり踊らないが、以前はよく踊っていた。  
解説:used to do は「以前はよく～した」。現在との対比がある場合によく使われ、今はそうでないことを暗示する。
- (137)正解③:人生は以前よりずっと楽になった。  
解説:used to do の慣用表現。Life is much easier than it used to be で「以前より楽だ」という意味になる。
- (138)正解②:私の姉は以前シカゴに住んでいたが、昨年ロサンゼルスへ引っ越した。  
解説:used to live は「以前住んでいた」。過去の状態や居住地の変化を表す典型的な used to の用法。
- (139)正解③:彼女は子どものころ、よく私たちに会いに来たものだ。  
解説:would(過去の習慣)は昔繰り返した行動を表す。come to see us が反復的行為なので would が適切。
- (140)正解③:私たちは子どものころ、毎年夏に川へ泳ぎに行ったものだ。  
解説:would(過去の習慣)は「よく～したものだ」。every summer があり、過去の反復行為を表している。
- (141)正解②:私たちは子どものころ、毎年冬にスケートをしたものだ。  
解説:would(過去の習慣)は過去の反復行為を表す。every winter があるので習慣的行動と判断できる。
- (142)正解④:両親が夜出かけるたびに、私は妹の世話をする役目を引き受けたものだった。  
解説:would do は過去の反復行為を表す。whenever があり、「そのたびに繰り返した行動」であることが分かる。
- (143)正解③:田舎に住んでいた間、私は早起することに慣れていて。  
解説:be used to Ving は「～することに慣れている」。to は前置詞なので、後ろには動名詞 getting を置く。
- (144)正解③:彼は釣りをすることに慣れていて、今はほとんどしない。  
解説:be used to Ving の形。used to do「以前は～した」と混同しやすいが、後ろは動名詞になる。
- (145)正解①:道路が完全にぬれている。夜の間に雨が降ったに違いない。  
解説:must have done は「～したに違いない」。道路がぬれているという現在の証拠から過去の出来事を推量している。
- (146)正解③:携帯電話をなくした。どこかに置き忘れたに違いない。  
解説:must have done は過去の強い推量。「きっと置き忘れたのだろう」という話者の確信を表す。
- (147)正解④:運動場は水たまりだらけだ。昨夜雨が降ったに違いない。  
解説:must have done の形。水たまりという証拠から、過去の降雨を強く推測している。

- (148)正解①:その結婚式はかなりのお金がかかったに違いない。  
 解説:must have done は過去の強い推量。招待客の多さや高級ホテルが判断の根拠になっている。
- (149)正解①:彼が高校生だったころ、その学校はとても人気があったに違いない。  
 解説:must have been は過去の状態への強い推量。今でも多くの年賀状が届くことが根拠である。
- (150)正解①:その泥棒はこの窓から逃げたはずがない。小さすぎる。  
 解説:can't have done は「～したはずがない」。窓が小さすぎるのが否定推量の根拠になっている。
- (151)正解③:彼がそれを盗んだはずがない。とても正直な少年だからだ。  
 解説:cannot have done は過去の強い否定推量。「盗んだはずがない」という意味を表す。
- (152)正解③:ケイトが道に迷ったはずがない。ここには何度も来ている。  
 解説:can't have done の形。何度も来た経験があるため、迷った可能性を否定している。
- (153)正解④:昨日京都でトムを見たはずがない。彼はまだイギリスにいる。  
 解説:cannot have done は「～したはずがない」。現在もイギリスにいる事実が根拠となる。
- (154)正解③:その映画を見たかもしれないが、見たかどうか覚えていない。  
 解説:may have done は「～したかもしれない」。過去の出来事について確信のない推量を表す。
- (155)正解②:トムは昨日そこにいたかもしれないが、私たちは見かけなかった。  
 解説:might have done は may have done よりやや弱い推量。「ひょっとすると～だったかもしれない」。
- (156)正解②:彼女はまだ来ていない。道に迷ったのかもしれない。  
 解説:may have done は過去の推量。lose one's way「道に迷う」の意味で用いられている。
- (157)正解③:彼女は事故に遭ったのかもしれない。家に電話してみよう。  
 解説:may have had は「～したかもしれない」。過去に起こった事故の可能性を推測している。
- (158)正解③:昨日のテストはうまくできたかもしれないが、結果はまだ分からない。  
 解説:might have done は過去の出来事への控えめな推量。「うまくできたかもしれない」の意味。
- (159)正解②:彼女はまだ来ていない。道に迷ったのかもしれない。  
 解説:may have done の形。have lost one's way で「道に迷った」という意味になる。
- (160)正解①:アリスは昨日そこにいたかもしれないが、私たちは見なかった。  
 解説:might have been は「いたかもしれない」。過去の存在についての不確かな推量を表す。
- (161)正解①:彼は目覚まし時計の音を聞かなかったのかもしれない。  
 解説:might not have done は「～しなかったのかもしれない」。過去の否定的推量を表している。
- (162)正解②:あきらめる前に、助けを求めるべきだった。  
 解説:should have done は「～すべきだったのに」。実際にはそうしなかったことへの

後悔や非難を表す。

(163)正解④:夕食の誘いを受ける前に予定を確認しておくべきだった。

解説:should have done は過去の義務・助言の不履行。「確認すべきだったのに」の意味。

(164)正解③:昨夜あなたに電話すべきだったが、とても忙しかった。

解説:should have done は「本当はそうすべきだったが、しなかった」を表す重要表現。

(165)正解③:今朝あなたに電話すべきだったが、忙しすぎてできなかった。

解説:should have done の典型例。実際には電話しなかったことへの後悔を表している。

(166)正解③:私は朝ジェーンからメールを受け取っているはずなのだが、まだ届いていない。

解説:ought to have done は「～したはずだ」。当然予想される結果がまだ起きていないことを表す。

(167)正解②:私はその講義に出席すべきだったが、出席しなかった。

解説:ought to have done は「～すべきだった」。should have done とほぼ同じ意味で用いられる。

(168)正解①:フランス語の先生は早いバスに乗ったので、もう到着しているはずだ。

解説:ought to have done は当然の推量。「当然もう着いているはずだ」という意味になる。

(169)正解①:妹は早い列車に乗ったので、もうここに着いているはずだ。

解説:ought to have done は「当然～しているはずだ」。高い可能性を表す推量表現。

(170)正解④:私は腰を痛めた。あんな重い箱を

運ぶべきではなかった。

解説:should not have done は「～すべきではなかったのに」。実際にしてしまったことへの後悔を表す。

(171)正解:ought not to have kept:そんな寒い夜に彼女を待たせておくべきではなかった。

解説:ought not to have done は「～すべきではなかった」。過去の行為への非難や後悔を表す。

(172)正解②:ずぶぬれだね。雨の中へ出るべきではなかった。

解説:shouldn't have done は「～しなければよかったのに」。実際にしてしまった行為を後悔している。

(173)正解:ought not to have kept:そんな寒い夜に彼女を待たせるべきではなかった。

解説:ought not to have done の形。should not have done とほぼ同じ意味で用いられる。

(174)正解②:昨日あなたにその秘密を話すべきではなかった。

解説:ought not to have done は「～すべきではなかった」。否定語 not は ought の直後に置く。

(175)正解:needn't have bought:高価な誕生日プレゼントを買う必要はなかったのに、買ってくれた。

解説:needn't have done は「～する必要はなかったのに、実際にはしてしまった」を表す。did があるので実際に購入したことが分かる。

(176)正解:should not have bought:そんな高価なアプリを買うべきではなかった。

解説:should not have done は「～すべきではなかったのに」。実際にしてしまった行為への後悔や反省を表す。

- (177)正解: You need not have paid him.  
【不要語: didn't need】  
解説: needn't have done は「～する必要はなかったのに実際にはした」の意味。  
don't need to do との違いが重要。
- (178)正解①: 客が来なかったので、あれほど余分な食べ物を買う必要はなかった。  
解説: needn't have done は「結果的に不要だった行為」を表す。実際には買ったが、その必要はなかった。
- (179)正解③: 天気予報に反して雨は降らなかったため、雨具を持ってくる必要はなかった。  
解説: needn't have done の典型例。実際に持参したが、結果として不要だったことを表している。
- (180)正解: You need not have paid him.  
【不要語: didn't need】  
解説: needn't have done は「する必要はなかったのにした」。過去の不要な行為を表す重要表現である。
- (181)正解③: 友人を選ぶときは、どんなに注意してもしすぎることはない。  
解説: cannot ... too ~ は「どんなに～してもしすぎることはない」の意味。頻出の慣用表現として覚えておく。
- (182) 正解: cannot be too careful in climbing a mountain  
訳: 登山では、どんなに注意してもしすぎることはない。  
解説: cannot ... too ~ の形。「いくら～しても十分ではない」という強い強調を表す。
- (183)正解①: 健康は財産より大切だ。健康にはどんなに注意してもしすぎることはない。  
解説: cannot ... too ~ の慣用表現。健康や安全などについてよく用いられる重要表現である。
- (184)正解②: 友人を選ぶときは、どんなに注意してもしすぎることはない。  
解説: cannot ... too ~ は「いくら～しても十分ではない」。強い注意喚起を表す表現。
- (185)正解: You cannot be too careful in the choice of your friends.  
訳: 友人選びにはどんなに注意してもしすぎることはない。  
解説: cannot ... too ~ の定番表現。tooがあっても否定と結びついて最上級の注意を表す。
- (186)正解①: 毎日の練習の重要性は、どれほど強調してもしすぎることはない。  
解説: cannot ... enough は「どんなに～しても十分ではない」。cannot ... too とほぼ同じ意味で用いる。
- (187)正解①: 皆様の温かい支援には、どれほど感謝しても感謝しきれない。  
解説: cannot thank A enough は頻出表現。「どれだけ感謝してもしきれない」の意味になる。
- (188)正解④: 重要なことではないと分かっているが、ついそれについて考えてしまう。  
解説: can't help Ving は「～せずにはいられない」。help の後ろには動名詞を置く。
- (189)正解①: 彼はコンサート中、眠らずにはいられなかった。  
解説: can't help Ving の形。fall asleep を動名詞にして falling asleep とする。
- (190)正解①: 彼が経済問題の解決に大きな努力をしたと思わずにはいられなかった。  
解説: cannot help but do は「～せずにはいられない」。can't help Ving と同じ意味を表す。
- (191)正解③: そのミュージカルを見る人は、幸福や喜びを感じずにはいられない。

- 解説: cannot help Ving の構文。help の後ろに feeling が続いている。
- (192) 正解: could not but leave【不要語: should】  
解説: cannot but do は「～せざるをえない」。but の後ろには動詞の原形を置く。
- (193) 正解③: 私は弟の数学の宿題を手伝わずにはいられなかった。  
解説: could not but do の形。「結局～するしかなかった」という意味を表す。
- (194) 正解①: 観客はそのピアニストの演奏を賞賛せずにはいられなかった。  
解説: cannot but do は「～せざるをえない」。but の後ろは原形 admire。
- (195) 正解①: 私たちは彼の正直で純真な答えに思わず微笑んだ。  
解説: cannot help but do は「～せずにはいられない」。help の後ろに but+原形を置く。
- (196) 正解①: 観客はその困難な状況での彼の勇気を称賛せずにはいられなかった。  
解説: cannot help but do は can't help Ving と同じ意味を表す重要表現。
- (197) 正解: may well: 彼がその扱いに不満を言うのももっともだ。  
解説: may well do は「～するのももっともだ」「当然～するだろう」の意味を表す。
- (198) 正解①: 彼が父親を誇りに思うのももっともだ。  
解説: may well do は十分な理由があることを表す。「当然～だろう」の意味。
- (199) 正解: well: トムが怒るのももっともだ。  
解説: may well do は「～するのも無理はない」。Tom has good reason to ... とほぼ同じ意味になる。
- (200) 正解: might as well close the shop as keep it open  
訳: 客がほとんど来ないのだから、店を開けておくより閉めた方がよい。
- 解説: might as well A as B は「B するくらいなら A した方がよい」という比較表現。
- (201) 正解: might as well walk  
訳: 今日は気持ちがよいので歩いた方がいい。
- 解説: might as well do は「～した方がよい」。消極的な提案や判断を表す。
- (202) 正解①: 生で見られないなら、テレビで見る方がよい。  
解説: might as well do の基本形。might と well を組み合わせて用いる。
- (203) 正解②: そんな人に金を貸すくらいなら海に捨てた方がましだ。  
解説: might as well A as B は「B するくらいなら A した方がましだ」という意味。
- (204) 正解②: ここでタクシーを待つくらいなら歩いて帰った方がよい。  
解説: might as well do は「どうせなら～した方がよい」という提案を表す。
- (205) 正解②: 今夜ほかにはすることがないなら、一緒に来た方がよい。  
解説: might as well do は「～した方がよい」。消極的な勧誘や提案によく用いられる。
- (206) 正解: might as well stay at home  
訳: パック旅行に参加するくらいなら家にいた方がよい。  
解説: might as well A as B の省略形。比較対象が文脈から明らかな場合によく使われる。
- (207) 正解②: 列車では時間がかかるので、飛行機で行った方がよい。  
解説: might as well do は「～した方がよい」。状況から見てより適切な選択を勧める。
- (208) 正解②:それほど重要ではないので、そのことは忘れてしまった方がよい。

- 解説: may as well do も might as well do とほぼ同じで、「～した方がよい」を表す。
- (209)正解:might as well really know  
訳:中途半端に知るくらいなら、全く知らない方がましだ。  
解説:might as well A as B は「B するくらいなら A の方がましだ」。比較の慣用表現として頻出。
- (210)正解④:一緒に来ないかと言われたが、私はここにいたい。  
解説:would rather do は「～したい」「むしろ～したい」を表す表現。would の後ろには rather を伴い、動詞は原形になる。
- (211)正解:rather:私はその課題を明日まで延ばしたくない。  
解説:would rather not do は「～したくない」。否定語 not は rather の後ろではなく、動詞の前に置く。
- (212)正解③:今日の午後は勉強するより買い物に行きたい。  
解説:would rather A than B は「B するより A したい」。than の前後には動詞の原形を置く。
- (213)正解④:私はむしろここにいたい。  
解説:would rather not do の形。rather の後ろは動詞原形で、否定は not be の形になる。
- (214)正解②:ピーターは映画に行くより家にいたい。  
解説:would rather A than B の構文。than の後ろも原形になるので go が正しい。
- (215)正解④:雨が降っているので、私は家にいたい。  
解説:would rather do は話し手の希望を表す。「むしろ～したい」という意味で使われる。
- れる。
- (216)正解:He would rather not see this movie.  
訳:彼はこの映画を見たくない。  
解説:would rather not do は「～したくない」。否定語は動詞の前に置く。
- (217)正解②:多くの若者は銀行に預けるよりお金を使いたがる。  
解説:would rather spend A than put it ... の形。than の後ろも原形 put を用いる。
- (218)正解①:私は一週間よりもっと長くロンドンに滞在したい。  
解説:would rather do の後ろは動詞原形。to stay や staying は用いない。
- (219)正解③:私はここにいたい。  
解説:I'd rather stay は would rather stay の短縮形。日常会話で頻出する表現である。
- (220)正解:I would rather not have the operation unless it is absolutely necessary.  
訳:絶対に必要でない限り、その手術は受けたくない。  
解説:would rather not do は「～したくない」。希望や選択を表す重要表現。
- (221)正解①:のどが渴いた。コーヒーが飲みたい。  
解説:would like to do は「～したい」の丁寧な表現。I'd は I would の短縮形である。
- (222)正解:I would like to speak to you in private.  
訳:差し支えなければ、二人だけでお話ししたいのですが。  
解説:would like to do は控えめな希望を表す。会話や依頼でよく使われる。

(223) 正解: I would like my son to be independent of me.

訳: 私は息子に自立してほしい。

解説: would like O to do は「O に～してほしい」。目的語＋不定詞の形を取る。

(224) 正解: I would like to work with children in the future.

訳: 将来は子どもたちと関わる仕事がしたい。

解説: would like to do は将来の希望や願望を表す定番表現である。

(225) 正解③: 機会があったのにトムを訪ねなかったのは残念だ。出国前に会いたかった。

解説: would like to have done は「～したかったのにできなかった」。過去の実現しなかった希望を表す。

(226) 正解②: 私はその展覧会を見たかっのに見られなかった。

解説: would have liked to do は「～したかったのに」。過去の未実現の希望を表す表現。

(227) 正解①: 彼がそんなに早く帰った理由を知っていますか。

解説: 疑問文の do。一般動詞 know を用いた現在形疑問文なので Do が必要である。

(228) 正解①: 彼らはいつ初めて出会ったのですか。

解説: 疑問文の did。過去の出来事を尋ねるため、did＋動詞原形 meet を用いる。

(229) 正解①: 私は彼が本当に何を意味していたのか分からない。

解説: 否定文の don't。一般動詞 know の否定なので don't know の形になる。

(230) 正解①: 彼はその時その規則を理解していなかった。

解説: 否定文の didn't。過去の否定文では did not＋動詞原形 understand を用い

る。

(231) 正解①: あなたの新しい計画が成功することを本当に願っています。

解説: 強調の do。do hope の形で「本当に～だ」と意味を強める働きをする。

(232) 正解①: 彼は最初は何も言わなかったが、本当は答えを知っていた。

解説: 強調の does。三単現の文で know を強調するため does を用いる。

(233) 正解①: 彼女は昨日本当に真実を話したが、誰も最初は信じなかった。

解説: 強調の did。過去形の動詞を強調するときは did＋動詞原形を用いる。

(234) 正解②: そんな小さな決断が人生を変えらるとは夢にも思わなかった。

解説: 否定語句による倒置。Never が文頭に出ると did＋主語＋動詞原形の倒置が起こる。

(235) 正解①: 事故の後になって初めて、その道路の危険性に気づいた。

解説: Only after ～ が文頭に出ると主節で倒置が起こり、did が必要になる。

(236) 正解①: 兄は私よりずっと英語を上手に話します。

解説: 代用の do。speaks English を繰り返さないため、do が代わりに用いられている。

(237) 正解①: 彼女はクラシック音楽が好きで、私もそうだ。

解説: so do I は「私もそうだ」。前文の一般動詞 like を do が代用している。

(238) 正解①: トムは病気で会議に出席しなかったが、メアリーは出席した。

解説: 代用の did。attended the meeting を繰り返さず、did が代わりに使われている。

(239) 正解①: サラがその問題を理解するとは

- 思わなかったが、実際には理解した。
- 解説：代用の did。understood the problem を繰り返さないため did を用いる。
- (240)正解①：会社を出る前にドアの鍵を閉めるのを忘れないでください。
- 解説：否定命令文の Don't。Don't+動詞原形で「～するな」を表す。
- (241)正解②：英語を話すとき、間違いを恐れな
- いでください。
- 解説：Don't be ～ は否定命令文。「～を恐れるな」という意味になる。
- (242)正解②：彼女はあまりテニスをしませんよね。
- 解説：付加疑問文。主文が doesn't play なので、後ろは肯定形の does she となる。
- (243)正解①：彼は2年間留学していましたよね。
- 解説：付加疑問文。主文が studied なので、後ろは didn't he となる。
- (244)正解①：首相は来週、経済サミットのためカナダを訪問する予定である。
- 解説：be to V(予定) は「～することになっている」。公式な予定やスケジュールを表す。
- (245)正解①：決勝戦は午後7時に始まり、全国放送される予定だ。
- 解説：be to V(予定) は公的な予定・日程を表す重要表現である。
- (246)正解①：応募者全員は今月末までに必要書類を提出しなければならない。
- 解説：be to V(義務) は「～しなければならない」。規則や指示を表す。
- (247)正解①：受験者は答案回収まで着席していなければならない。
- 解説：be to V(義務) の用法。試験規則などの公的義務を表している。
- (248)正解①：濃い霧のため、丘からは一軒の家も見えなかった。
- 解説：be to V(可能) は「～できる」。否定文では「～できなかった」という意味になる。
- (249)正解①：当時、満足のいく解決策は見つからなかった。
- 解説：be to V(可能) の否定。「結局～できなかった」という結果を表す。
- (250)正解①：その若い科学者は後に最も影響力のある研究者の一人となる運命だった。
- 解説：be to V(運命) は後から振り返って「～する運命にあった」を表す。
- (251)正解①：彼は18歳で故郷を離れ、その後二度と故郷を見ることはなかった。
- 解説：be to V(運命) は物語や伝記でよく用いられ、「結局～することになった」の意味になる。
- (252)正解①：もし合格したいのなら、毎日勉強しなければならない。
- 解説：If S be to V は「もし～するつもりなら」「もし～したいなら」。意図・目的を表す用法。
- (253)正解①：会社が競争の激しい市場で生き残りたいなら、無駄な費用を削減しなければならない。
- 解説：If S is to V は目的・意図を表し、「～するためには」という意味で用いられる。